



1. かっぱの顔をモチーフにした最優秀賞「かっPーザまん」、2. 牛久産の味噌とらっかせいを使った「味噌らっかせいベーグル」、3. 手軽にできる「ゆめかおりピーチョコスコーン」

それぞれのゆめを形に うしくスローフードコンテスト

2月17日に「うしくスローフードコンテスト」の最終審査が行われ、最優秀賞と優秀賞2点が決まりました。

テーマは「牛久産小麦ゆめかおり」を主原料としたもので、応募総数73点の中から書類選考で選ばれた6作品が競い合いました。最優秀賞に輝いたのは、坪井孝賢さん・島田町在住の「かっPーザまん」。優秀賞は、マキのパン屋・藤田真紀さん（土浦市在住）の「味噌らっかせいベーグル」と大林ひろこ・穰・權さん（中央在住）の「ゆめかおりピーチョコスコーン」。

今回のコンテストでは、地元で育てた安心安全な「ゆめかおり」の香りの良さや素朴な味わいを活かした、レベルの高い作品が多数寄せられました。

すでに学校給食では、この小麦を使用したパンや麺が提供されています。

ご家庭でもお試しいただけるよう、参加作品のレシピを農業政策課ホームページで公開中です。今後、市のイベントでも販売予定ですので、お楽しみに！

問 「ゆめかおり」の購入や問い合わせは：うしくグリーンファーム
(株) ☎ 875・1333

彫刻家の一色氏が 文化庁長官表彰受賞



1月23日、市役所を表敬訪問した一色邦彦氏(写真中央)

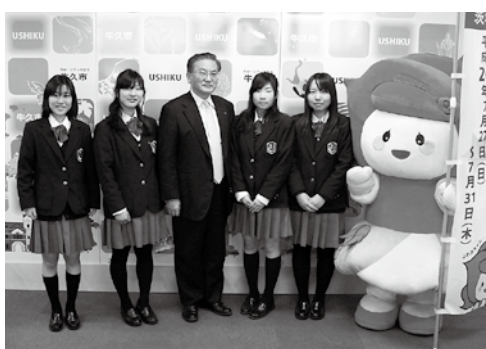
12月4日、東京都千代田区で「平成25年度文化庁長官表彰」が発表され、市内に在住の一色邦彦氏(いっしきくにひこ)が「彫刻家として永年にわたり、優れた制作活動を行うとともに、各地に野外彫刻を設置して街を彩るなど、芸術文化の振興に多大な貢献をした」として、文化庁長官から表彰されました。

一色氏は市中央生涯学習センターロータリーにある牛久市市制記念の「ふれあいの像」の制作や、「うしく現代美術展専門委員」、「ピエンナーレうしく特別顧問」なども歴任。受賞について一色氏は「嬉しいですね。日本文化が見直されている昨今、我々が芸術文化をどうするか考えなければなりません」と話しました。

全国高校生の 文化の祭典にむけて

今年の7月27日から31日に「第38回全国高等学校総合文化祭」いばらき総文2014が茨城県内で開催されます。全国高等学校総合文化祭とは、文化部のインターハイとも呼ばれる全国の高校生の文化の祭典で、高校生が発表や展示を行い、日ごろの成果を発揮するものです。

牛久市では7月30・31日に市中央生涯学習センターで「日本音楽」の部門を開催。これに先立って、2月7日、運営に参加する牛久高等学校の学生代表の4人と大会マスコットキャラクターの「ふれあちゃん」が市役所を表敬訪問しました。



大会マスコットキャラクター「ふれあちゃん」もキャンペーンで訪問



1. オープニングアトラクションの牛久高等学校吹奏楽部による演奏、2. パネルディスカッションの様子、3. 藻谷浩介氏の講演

小さな「つながり」を

大きな「ひろがり」へ

「うしく男・女フォーラム2014」

2月1日、市中央生涯学習センターで「うしく男・女フォーラム2014」が開催され、約1000人が会場を訪れました。この催しは、男女が互いに人権を尊重し、仕事と生活の調和、生きる意識を高めることを目的に開催されています。今回は「子育て・教育」に焦点をあて、市職員による「男女共同参画と牛久のまちづくり」の発表や市民によるパネルディスカッション、藻谷浩介氏（株）日本総合研究所調査部主席研究員による講演会が行われました。市民によるパネルディスカッションでは、長谷川幸介先生（茨城大学准教授）をアドバイザーに迎え、5人のパネリストが意見交換。パネリストの一人、浅野繁夫氏（下町シニアクラブ会長）は「元氣な地域づくりのために、高齢者もぜひ一緒に地域活動に参加しましょう」と呼び掛けました。

また、「今こそ、地域の発展は男女共同参画から」未来を担う子どもたちへ」と題した藻谷氏の講演では、日本の人口問題と牛久市の現状・将来予測について、「労働力が減少しても地域が発展していくには、現在働いていない女性たちの社会参加と社会参加しやすい仕組みづくりが必要」と話しました。

地域の安全・安心に向けて



時代劇風の「振り込め詐欺防止寸劇」

2月8日、市中央生涯学習センターで「うしく安全・安心ワールド2014」が開催されました。

第1部の桜川市民劇団「どてかぼちゃ」による振り込め詐欺防止寸劇では、来場者はユーモア溢れる劇を見ながら、詐欺の手口を学習しました。

また、第2部では「今日から役立つ、家庭と地域の実践的防災術」をテーマに、防災システム研究所所長の山村武彦氏が講演。阪神・淡路大震災や東日本大震災の被害状況の映像を交え、地震から命を守る退避行動や「建物や心の耐震化」などについて分かりやすい説明がありました。

宝くじの助成金で

防災資機材を整備

緑ヶ丘、みどり野、つつじが丘、本町および神谷の各防災会では、財団法人自治総合センターが募集した「平成25年度コミュニティ助成事業」による宝くじ助成金を受けて、防災資機材を整備しました。各防災会では、自分たちの地域は自分で守るという意識のもと、自主的な防災活動に積極的に取り組んでいて、今後も安心して暮らせる地域づくりの推進に一層の活躍が期待されています。

交通防災課 ☎ 内線1681

←神谷防災会で導入した発電機、ホットガン、リヤカー(写真左)



みどり野防災会で導入した防災倉庫(写真右)→



大好評「いもまん！」

1月24日、市内の
小中学校で学校給食
「牛久の日」が行わ
れました。牛久の



日で提供される食材は乳製品と調味料以外は全て牛久産。平成18年度に始まったこの取り組みは、平成19年度には牛久産のサツマイモを使い、市内の製造業者に特別に依頼した「いもまん！」が提供されるようになりました。

「いもまん！」は、給食でその日食べるためだけに作られており、保存料が使われていないため一般販売ができない食品です。まさに幻の一品。この日、牛久小学校3年生のクラスでは児童たちは笑顔で完食した後、おかわりの「いもまん！」をめぐりジャンケン大会で盛り上がりました。



おいしそうに「いもまん！」を食べる児童たち

家庭教育学級合同閉級式

1月30日、
市中央生涯
学習センター
文化ホールで



「平成25年度牛久市家庭教育学級合同閉級式」が開催されました。第1部では、幼稚園、小学校、中学校の代表による実践報告が行われ、最後に牛久第三中学校の須澤美貴子学級委員長が、学級生を代表して謝辞を述べました(右写真)。第2部では、蛇原幸子氏と守谷佐恵子氏によるフルートとピアノの演奏を鑑賞し、第3部では、犬童道治医師(医学博士、犬童こどもクリニック院長)から、「こどものかぜって？」をテーマに、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症の講演がありました。

参加者たちは、一年間の家庭教育学級を通して、子育ての苦労や悩みを共有しながら、親同士が学び合い、自らの子育てを見直すよい機会になりました。

スローシティのまちづくりを目指して

子どもたちが提言

1月25日、市中央生涯学習センター大講座室で「かつば大交流会」が開催されました。

当日は「スローシティのまちづくりを目指す牛久市への提言」をテーマに、市内小中学校代表4校(牛久小学校、向台小学校、牛久第一中学校、牛久第三中学校)の他に、「未来塾」(三重県大紀町立七保小学校の小学生とその卒業生)の児童・生徒、牛久南中学校の環境学習に関わった筑波大学などの学生が参加し、日ごろの環境学習の成果を発表しました。

牛久小学校の児童(左写真)は、「生き物と話をしよう」と題して、生き物が住みやすい環境について調べたことや、学んだことを下級生に分かりやすいクイズ形式で教えていることなどを発表しました。筑波大学の小河澄香さんは耕作放棄地となった谷津田を復田させる活動などについて発表。



平成25年度スポーツチャンピオンフェスティバル バレーボール大会結果

<1月19日、牛久運動公園体育館サブアリーナ>
小学生を対象としたバレーボール大会が開催され、熱戦が繰り広げられました。

順位	チーム名
優勝	おくのバレーボールスポーツ少年団
準優勝	Hokulea
第3位	牛久市バレーボール協会

「トキが舞うような谷津田にしたい。中学生と大学生だけでなく、地域の大人の方もぜひ参加してほしい」と話しました。七保小学校は、過疎化で荒れた茶畑を地元の方たちと協力しながら再生させ、茶葉を商品化した成果を紹介しました。



パネリストの市内各校の児童や生徒たち